

候通、度外に被成置候。御心氣は少しも御疲困の氣味無之候。前にはたとへば御講説候ても、人の合點参り候様によく御よみ聞せ被成度、又は人の何角申さぬ様に御よみ可被成など、申儀にて、何としても外へ目を被付候事、少は有之様に御覺被成候て、其方にて御精もつき候得共、今程は左様の氣味も拔候て、自然の趣を被得候故、心氣も安らかに罷成候て、殊の外御樂に御覺被成候。是を被思召候へば、人の養生脾胃を養保候事は勿論にて、心をつかひ不申儀、是又第一の事と思召候旨御咄にて、頃日片孝七より來書に、頃日楚辭を見候てかな書に其意を記し候。出來次第受御是正可申旨申來候に付、其返答に載營魄の儀を被仰遣候とて、御咄かゝり被遊候處へ、中村玄春老被參候て承りさし罷歸、殘念成儀に候。

十一月十八日

小寺兄來書の内

一、蝗害に付餓季その他  
 大坂東狀  
 西州蝗災の後、飢人・餓死人並斃牛馬大概の様子、鴻池喜七郎紙面の趣左の通。

伊豫國內

松平左京大夫殿領分 飢人五千四百十四人。  
 松平筑後守殿領分 飢人九千八百九十六人。餓死百十三人。

松平隱岐守殿領分 餓人六萬四千百十五人。餓死千五百二十二人。斃牛馬貳千百貳疋。

一柳兵部少輔殿領分 飢人貳千五百四十壹人。此外可及餓者六百四人有之由。

加藤遠江守殿領分 飢人貳萬百五十人。斃牛馬百疋。

加藤織部正殿領分 飢人五千三百七人。斃牛馬貳十疋。

豐後國內

久留嶋信濃守殿領分 飢人七十人。此外當暮來春へ至、

可及飢者千四百四十人餘。

松平對馬守殿領分 飢人百六十人。此外當暮來春へ至、

可及飢者千六百九十人餘。

松平齋宮殿領分 飢人三千人。此外當暮來春へ至、

可及飢者百二十人有之。

日向國內

牧野越中守殿領分 飢人四千三百貳千餘人。此外當暮

來春へ至、可及飢者有之旨、地頭・賄人・名主等より申出候旨。

豐前國內

松平主殿頭殿領分 飢人六千人。但右同斷。

右之通承及候に付書記上之候。以上。

十一月晦日

鴻池喜七郎

一、公儀御用金半分御返濟の事

去々年公儀御用脚指痞候に付、御先手細井佐次右衛門殿御使にて、金子拾五萬兩御借用被遊、大坂迄被指上候。其金子半分は當秋於江戸御返濟有之、半分は當暮於大坂御返濟の筈に、當七月御參觀の節、同人を以被仰出、則半分相渡、御當地へ与力差副到來仕候。半分當暮御返濟の金子の儀は、今年西國筋蝗災の故に、段々拜借も被仰付候折柄に候間、御延引被成度の旨、又同人を以被仰上候。

一、キガラと云ふ毒蟲

肥前州大村領へ當秋出候負簍の外キガラと云毒蟲の形狀。領主は大村河内守殿。此蟲稻苗及草木を喰ひ人畜を刺す、甚毒あり。

